

4 . 財市場

マクロ経済で習うこと

中心はG D P

(支出の内訳)

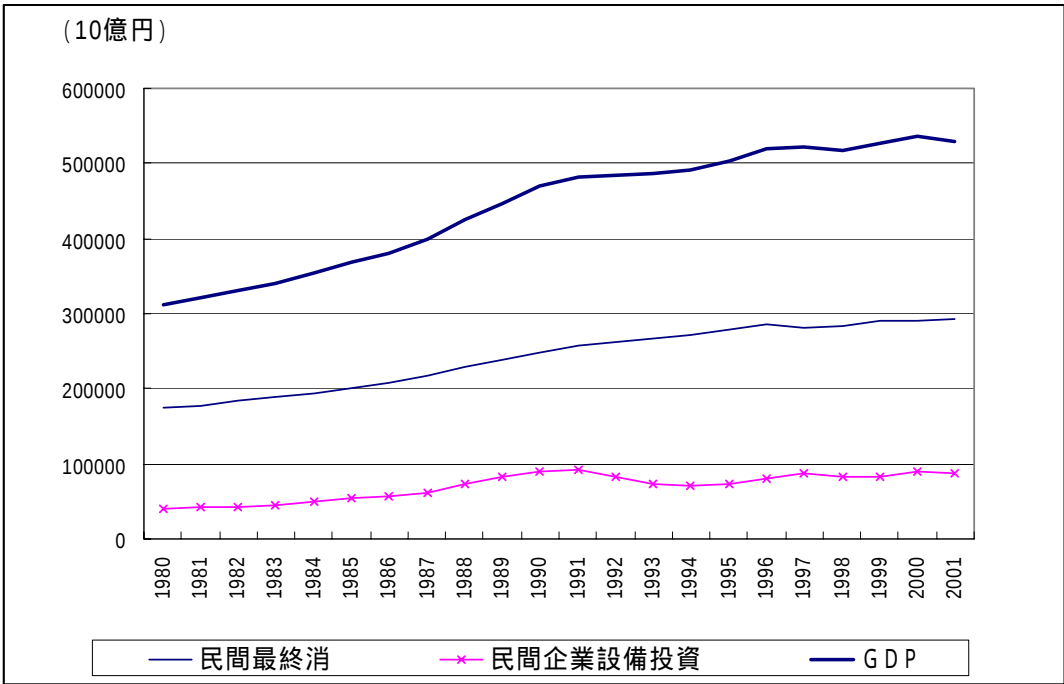
G D P = 消費 + 住宅投資 + 設備投資 + 在庫投資 + 公共投資 + 政府支出 + 輸出 - 輸入

(時系列)

G D P = 経済成長 + 景気循環

市場	生産物市場	貨幣市場	労働市場
供給	企業	マネーサプライ	労働者 (失業率)
需要	消費・投資	貨幣需要	企業
価格	物価 (消費者物価 卸売物価)	利子率 (国債利回り)	賃金 (雇用者所得)

G D P (国内総生産) とその内訳 重要なのは消費と投資



消費と投資の意味について

	一般的な定義	G D P 統計での定義
消費	買うことによって満足度が 高まるもの。 レストランの食事、服の購入	家計（個人）が行うものはほ とんど消費。 投資は、住宅投資だけ。
投資	買うことによって、将来儲か ることが期待できるもの。 教育への投資、企業の工場建 設、株を買うこと。個人で英 会話学校へ通うのも投資。	設備投資 企業が行う投資。工場や店舗 など。 公共投資 政府が行う投資。道路や橋の 建設など。 在庫投資 ものを売るのに備えて、手元 に商品を持っておくこと。

消費の主役は家計（普通の家）

投資の主役は企業（会社）

消費や投資が増えればG D Pが増える。不況の時、消費や投資の増やし方がわかれば解決できる。消費や投資がどうして決まるのかを考えるのは重要。

消費に関する問題

毎月アルバイトで 10 万円もらっていました。そのうち、5 万円を服や食事代(消費)に、5 万円を貯金しています。ある月に時給が上がって 20 万円もらうことになりました。さて、20 万円のうち、いくらを消費に回しますか？

1. 給料が上がったので、少しは買い物を増やして 8 万円使う。
2. バイト代の半分を使うことにしているので、10 万円使う。
3. 年をとったら働けなくなるので、今のうち貯金しておく方がいいから、これまでどおり 5 万円使う。
4. 今月は 20 万円もらえたが、またバイト代は 10 万円に戻らと思うので、5 万円しか使わない。
5. 回りの友達を見たら、結構いろんなものを買っているの、思い切って 15 万円使う。

投資に関する問題

跡見学園女子大学は、さらに学生を呼び込むために、建物をたてようと計画した。どういう考え方で投資すれば良いか？

1. お金を借りる必要があるの、その金利と、建てることによって増える将来の学生増加分を考えて決める。
2. ミクロ経済学の理論(企業の利潤最大化)をそのまま当てはめる。
3. 現在ある建物が、望ましい分だけあるかどうかを考えて、足りなければ投資する
4. これまでの学生数の増え方を見て、投資の額を決める。
5. さまざまな人に聞いてみた跡見学園女子大学への期待と現在の価値を比べて、期待の方が大きければ投資をする。

さまざまな消費の仮説

平均消費性向 = 消費 / 所得

問題の場合、バイト代が増える前の平均消費性向は $5 / 10 = 0.5 = 50\%$

	仮説の名前	説明
1. 給料が上がったので、少しは買い物を増やして8万円使う。	ケインズ仮説	所得が増えると平均消費性向は低下する。 平均消費性向 = $8 / 20 = 40\%$
2. バイト代の半分を使うことにしているので、10万円使う。	クズネッツ仮説	消費性向は一定である。 長期時系列データの分析から発見。 平均消費性向 = $10 / 20 = 50\%$
3. 年をとったら働けなくなるので、今のうち貯金しておく方がいいから、これまでどおり5万円使う。	ライフサイクル消費仮説（モディリアーニ）	もっと長い目で消費を考える。個人の消費活動はその個人が一生の間に消費することができる所得の総額の大きさにより決定される。若い頃は貯蓄をして、歳をとると貯蓄を使って消費をする。 永続的な減税で消費は増えるが、一時的な減税では消費は増えない。
4. 今月は20万円もらえたが、またバイト代は10万円に戻ると思うので、5万円しか使わない。	恒常所得仮説（フリードマン）	将来も含めた自分の所得能力（恒常所得）を計算し、毎年一定割合を消費する。 一時的な要因で変わる変動所得は重視しない。
5. 回りの友達を見たら、結構いろんなものを買っているの、思い切って15万円使う。	相対所得仮説（デューゼンベリー）	消費は、現在の所得だけでなく、その人の過去最高の所得、他人の所得などに依存する。 所得が減少しても、なかなか消費が減らせない説明に有効。

さまざまな投資理論

設備投資 = フロー (新しく建てる建物)

資本ストック＝ストック（これまで建てた建物全部）

	仮説の名前	説明
1. お金を借りる必要があるの で、その金利と、建てることによ って増える将来の学生増加分を考 えて決める。	ケインズ	借りることによる費用とそれを作って得られる収益とを比べる。 建設にかかる利子 < 将来の収益 投資する 建設にかかる利子 > 将来の収益 投資しない 将来の収益：資本の限界効率
2. ミクロ経済学の理論（企業の 利潤最大化）をそのまま当てはめ る。	新古典派	資本の限界生産性＝資本の使用者費用（資本のレンタルコスト） になるような望ましい資本ストックを求め、それに合うように投資 をする。 レンタルコスト：利子や資本減耗
3. 現在ある建物が、望ましい 分だけあるかどうかを考えて、足 りなければ投資する。	ストック調整 原理	望ましい資本ストックを想定する。 現在の資本ストック > 望ましい資本ストック → 投資しない 現在の資本ストック < 望ましい資本ストック → 投資する。
4. これまでの学生数の増え方 を見て、投資の額を決める。	加速度原理	投資(I)は生産量(Y)の変化分に依存すると考える。a は定数。 $I_t = a(Y_t - Y_{t-1})$ 学生数が増えているときは、投資をどんどんすることになる。（日 本の高度成長期（1960 年代）など） (注)生産量の変化分＝望ましい資本ストックと現実の資本ストック の差と考えることもできる。
5. さまざまな人に聞いてみた 跡見学園女子大学への期待と現在 の価値を比べて、期待の方が大き ければ投資をする。	トービンの q 理論	$q = \text{企業の株式総額} / \text{企業の資本設備などの再取得価格}$ $= \text{企業への期待} / \text{企業の現実の価値}$ <u>1 より大きいと投資。</u> 企業の株式総額＝設置済みの資本の市場価値 ：証券市場が期待する企業の価値総額（将来の収益を反映） 企業の資本設備などの再取得価格＝設置済み資本の再取得費用 ：企業の現在の価値（現在の収益を反映）